

次のぼう線部の漢字の読みを右側にひらがなで書いてください。

- ① 衣類を整理する。
- ② 貨物列車で荷物を運ぶ。
- ③ 標高3000メートルの山に登る。
- ④ 薬を使って消毒する。
- ⑤ 細かい部分を省いて伝える。
- ⑥ 億万長者になった大臣。
- ⑦ 勝敗を決める試合。
- ⑧ 課外活動に参加する。
- ⑨ 散らかりほうだいの部屋。
- ⑩ 成功して得意になる。

次のぼう線部のひらがなを右側に漢字で書いてください。

- ① そのいけんにきょうかんする。
- ② かんさつしてきろくする。
- ③ きぼういっばいのしんにゆうせい。
- ④ きかいをかいはりようする。
- ⑤ そつぎようしきでしゅくじをのべる。
- ⑥ べんりなでんしきき。
- ⑦ さくねんのじゅうだいニュース、
- ⑧ しめいをきにゆうする。
- ⑨ やくそくの時間をまもる。
- ⑩ としよかんで本をかりる。

次の文章を読んで後の問いに答えてください。

そのレストランにノスタルという、きつねのコックがつとめていました。

ノスタルは、北の方の山の中で生まれ、そこで育ったきつねでしたが、とにかく、料理を作ることが大好きで、

「ぜひとも、自分のレストランをもって、いろいろな料理を作ってみたい。」  
というのが、<sup>①</sup>小さい時からゆめでした。

やがて、ノスタルは、町に出てきて、料理学校へ通い、そこをそつぎようした後、レストランで働くことになりました。そのころには、自分の料理のうでまえについても、たいへんな自信をもつようになっていて、

「まあひとつ、ぼくの作った料理を食べてみるがいい。そのとたん、だれもが生まれ変わったように、しあわせになるにちがいないのだ。」

と、そんなことを考えたりする時さえ、あったほどなのです。

ところが、あいにく、レストランの主人というのが、なかなかのやかましやで、どんなにたのんでも、思いどおりの料理を作らせてくれようとはしません。おかげで、自分の店をもちたいというノスタルの気持ちは、ますます、強まるばかりでした。

でも、レストランを開くには、たいへんなお金がかかります。いったい、どうすれば、それだけのお金を手にいれることができるのか。それが、<sup>②</sup>一番の大問題でした。

「とにかく、けんやくするしか、道はなさそうだ。できるだけ、けんやくして、店が開けるだけのお金をためなければ。」

そう決心したノスタルはさつそく、その日から、<sup>③</sup>けんやくにとりかかりました。

それがまた、なみたいていのけんやくではなく、くつのそこをすりへらしてはいけないというので歩く時も、なんとなく、こそそとした足どりをするようになりましたし、はなをかむときには、\*はな紙を、半分に切ってつかったりもしました。しばらくすると、

「これでもまだ、もったいない。」

と考えて、半分を、また半分に切った紙を使うようになりましたが、四半分の紙ではなをかむのは、思ったよりもむずかしく、うまく、かめるようになるまでには、だいぶ、練習をかさねなければなりませんでした。

(小沢正「せかいいちきたないレストラン」より)

\*はな紙—ティッシュペーパーのこと

問(一) ノスタルの<sup>①</sup>小さい時からのゆめとは、なんですか。

問(二) 料理学校をそつぎようしたノスタルはまず何をしましたか。

問(三) ノスタルがレストランを開くにあたって、なにが<sup>②</sup>一番の大問題でしたか。

問(四) ノスタルはどのような<sup>③</sup>けんやくにとりかかりましたか。あるだけ具体的に書いてください。

問(五) あなたが大きくなってからやってみたいことはなんですか。またそのためにどのような努力をするべきだと思いますか。自由に書いてください。